

令和2年度 学校評価結果について

主に、生徒、保護者アンケートを中心に、「よく当てはまる」と「だいたい当てはまる」を合わせた値を肯定的回答、「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた値を否定的回答として集計・分析した。

1 回収率

生徒・学生	保護者	教職員
98.9%	94.8%	100%

2 実施期間

令和2年12月4日（金）～11日（金）

3 評価の高い項目・低い項目

(1) 生徒、保護者ともに評価の高かった項目（80%以上）

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

「部活動は活発に行われている」

「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

「学校生活は充実している」

「教育課程は、進路に適した科目選択ができる」

- 看護科のみの項目については、生徒、保護者ともに肯定的回答が8割を大きく超えていた。
- 例年評価が高い「有意義な学校行事がある」「行事が活発に行われている」が8割を下回っている（保護者のみ）のは、コロナウイルス感染防止のため行事が中止されたり縮小されたりしたことによるものだと考えられる。
- 今年度は、「進路目標の明確化に向けた指導」「進路に適した科目選択」の項目の評価が例年より高くなっており、分掌や年次できめ細やかに指導を行っていることが、生徒だけでなく保護者にも伝わっているものと考えられる。

(2) 生徒、保護者ともに評価の低かった項目（50%以下）

該当なし（昨年度同様）

(3) 生徒、保護者に差が見られた項目（15ポイント以上の差）

①「いじめの早期発見に取り組んでいる・いじめ問題に対する取組方針が共有されている」

肯定的回答は、生徒65.6%、保護者42.2%であり特に保護者の肯定的回答の数値が低く、これはほぼ例年どおりの結果である。特に保護者の数値の低さについては、「わからない」と回答した割合が33.4%と高いことから、項目の性質上、学校の取組が家庭に伝わりにくいことも肯定的回答が低い理由の一つと考えられる。（肯定的回答の割合は生徒・保護者とも前年度より増加している。）

②「学校のウェブサイトを見ている・学校のウェブサイトは充実している」

肯定的回答は、生徒22.3%、保護者62.9%であり特に生徒の肯定的回答の数値が低く、これは例年通りの傾向である。理由としては、ウェブサイトが主に保護者や地域、中学生らを対象としており、在校生向けの情報が少ないことが挙げられる。今後生徒のウェブサイト閲覧を増加させるのであれば、在校生向けのコンテンツや、生徒主体で情報を発信できる仕組みを考える必要があるだろう。

③「M&Tタイムは自分の役に立っている・M&Tタイムの実施内容を知っている」

生徒の肯定的回答は増加しているが、保護者の肯定的回答は36.3%と低い数値となっている。今年度はコロナ禍により全体発表会を広く公開することは叶わなかったが、次年度以降保護者や地域に本校の取組を周知する工夫が必要ではないか。

④「学校行事は活発に行われている」

肯定的回答は、生徒92.6%、保護者72.1%である。例年は生徒・保護者ともに肯定的回答が90%を超える項目であるが、今年度は上記（1）で分析したように、コロナ禍であることが大きく影響していると考えられる。次年度以降も行事の実施については工夫が求められる場面が多くなると予想される。いかに工夫して生徒の活動を保障し、その様子を保護者に伝えるかが課題となるだろう。

(4) 生徒、または保護者に評価の低かった項目（50%以下） ※上記（2）で挙げたものを除く
該当なし

- 昨年度は、保護者の「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」（46.7%）の項目で肯定的回答の割合が低かったが、今年度は51.9%となり、5.2ポイント上昇している。

4 前年度からの変動の大きかった項目等（5ポイント以上）

(1) 生徒アンケートについて

【肯定的回答増加】

「地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」（+5.2）

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」（+6.2）

- 「日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」(+ 8. 0)
- 「教育課程は進路に適した科目選択ができるようになっている」(+ 6. 5)
- 「M&Tタイムは自分の役に立っている」(+ 5. 9)
- 「先生方は、個別の質問に丁寧に答えてくれる」(+ 5. 7)
- 「看護の本質や社会的意義について考える指導が行われている」(+ 8. 8)

○ 特に「地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」「M&Tタイムは、自分の役に立っている」は年々少しずつ肯定的回答が増加している項目である。総合的な探究の時間における課題研究の取組や部活動における地域貢献活動などが生徒に浸透し、評価されているようである。

(2) 保護者アンケートについて

【肯定的回答増加】

- 「学校だよりなどによって学校の情報が適切に伝えられている」(+ 10. 4)
- 「自主的に健康管理ができています」(+ 7. 9)
- 「ウェブサイトは内容が充実している」(+ 6. 4)
- 「自主的に家庭学習をしている」(+ 5. 1)
- 「看護科では進路達成のための指導が行われている」(+ 5. 1)

- 健康管理や家庭学習の項目については、コロナ禍の影響が見られる。
- 学校からの情報提供については、各年次や分掌において、紙媒体だけでなく Classi や一斉メールを活用したことが功を奏しているのではないかと。

【肯定的回答加減少】

- 「有意義な学校行事がある」(- 14. 9)
- 「生徒会行事は活発に行われている」(- 23. 8)
- 「看護の基本的知識や看護技術の習得ができる指導が行われている」(- 9. 3)

- 前段でも分析したとおり、コロナ禍で様々な行事が中止・縮小されたことが、肯定的回答減少につながっている様子が見える。特に看護科では臨地実習が校内実習に切り替わった事に不安を覚えている保護者もいるようである。(自由記述欄参照。) 学校として、今後どのように教育活動に取り組んでいくか、そしてその教育的効果をこれまでと同等にまで保障出来るかが、大きな課題となるのではないかと。

(3) 教職員アンケートについて

【肯定的回答増加】

「各年次で自主的な学習習慣を確立できるような指導が行われている」(+5.7)

「看護の基本知識や看護技術が習得できる指導が行われている」(+6.8)

「看護の本質や社会的意義について考える指導が行われている」(+5.6)

「(2年次) 基本的な生活習慣を身につけさせる指導を行っている」(+6.5)

【肯定的回答減少】

「生徒の学校生活は充実していると思う」(-8.4)

「Classiの活用を進めている」(-5.2)

「支部PTAは学校と家庭の相互理解の場として役立っている」(-18.5)

「生徒の学習意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」(-7.3)

「授業力向上の取組は適切に実施している」(-13.2)

「M&Tタイムは生徒の学習や進路や生き方に役立っている」(-6.2)

「年次・保護者との連携を密にするように努めている」(-5.0)

「生徒会活動は活発に行われている」(-12.6)

「行事は活発に行われている」(-10.7)

「災害・非常時の対応や連絡方法は伝えている」(-6.0)

「清掃指導はよく行われている」(-8.5)

「読書の啓蒙及び読書習慣の育成に努めている」(-7.4)

「(1年次) 学習習慣を身につけ、日々の授業を大切にす指導を行っている」(-13.3)

「(3年次) 日々の授業の大切さを自覚させる指導を行っている」(-8.8)

「(3年次) 模擬試験への積極的参加を促し、有効利用させている」(-5.1)

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」(-5.1)

○ 今年度は【肯定的回答減少】に挙げられた項目が例年から倍増している。「例年通り」でできなかった項目が中心とはなっているが、見方を変えれば、今後よりよい教育活動を推進していくための事業の見直しや取捨選択のよい機会になったとも言える。担当分掌を中心に、次年度対策に向け検討を図って行く必要がある。